



テイク1アドバンスバイト

テイク1アドバンスバイトを用いた総義歯の咬合採得について

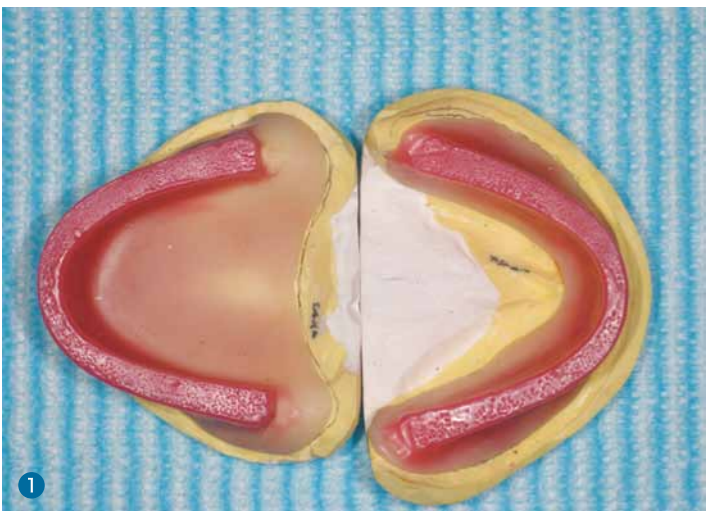
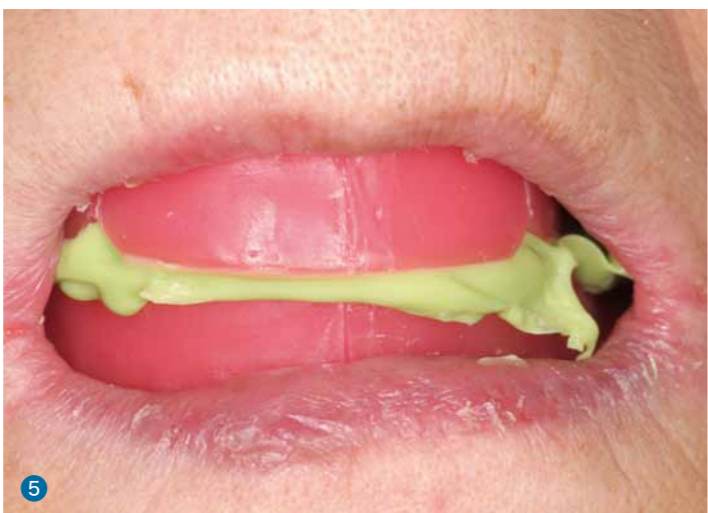
ロウ堤のワックスを軟化させ、咬ませる方法は広く知られた方法であり、その通りに行う先生も多いと思います。私も、以前はこの方法で咬合採得を行っていました。

この方法はロウ堤を均一に軟化させる事が重要であり、お湯を用いてロウ堤を軟化させていましたが、ワックスが硬化するまでの時間で患者さんが咬み込み過ぎてしまったり、顎位が変化したりするという事を何度も経験しまし

た。最近では訪問診療も行うようになり、特に訪問診療の現場では患者さんとの意思の疎通が難しい場合や、患者さん本人が顎位を保持しにくい場合が多く、スピーディに、かつ正確に、咬

合採得を行える方法を探していました。テイク1アドバンスバイトを用いる方法に変えてからは、咬合採得に失敗する事がかなり少なくなりました。ここでは咬合採得の詳細な手順については

割愛させて頂き、テイク1アドバンスバイトを用いる場合のポイントとメリットについて考察していきたいと思えます。



【メリット】

- ・テイク1アドバンスバイトは柔らかく、硬化が早い(30秒程度)患者さんの顎位が変化しにくい。
- ・ロウ堤は硬化している状態であるため、閉口時に患者さんが咬み込み過ぎを起こしにくい。
- ・硬化後の変形がとても小さいため、口腔内から撤去する際の変形や撤去後の変形を起こしにくい。

【手順】

1. 通法通りに印象を行い、ロウ堤を完成させる。
2. 咬合平面を合わせ、咬合高径を確定させる。
3. 同時に咬合位の再現性を目的とする正中線や他の指針など必要な線を描記する。
4. ロウ堤に深く刻み(キー)を入れる。
このキーでテイク1アドバンスバイトを保持させる。
5. 口腔内にロウ堤を戻し、下顎にテイク1アドバンスバイトを流し患者さんに閉口してもらい描記した線を元に、正しい咬合位に復位させる。
この際、キーや上下ロウ堤間からテイク1アドバンスバイトが流れ出すがそのまま硬化を待つ。
6. テイク1アドバンスバイト硬化後、ロウ堤を口腔内より取り出し、ズレ等がないか確認する。